

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会
2	日時	平成21年7月8日(水) 午前10時から12時まで
3	会場	上田中央消防署 3階会議室
4	出席者	日端委員長、龍野副委員長、伊藤委員、成沢委員、山浦委員、山崎委員、関口委員、寺島委員、岡村委員、西澤委員、竹花委員、山岸委員、田中委員、清住委員、桜井委員、竹内委員、宮下委員、関田専門委員、【欠席委員】土本委員、美山委員、小池委員、森委員、浦委員、小川委員、柄沢委員、宮本委員、
5	市側出席者	大澤政策企画局長、小市教育次長、宮川政策企画課長、中部文化振興課長、中山公園緑地課長、清水都市計画課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、近藤政策企画担当係長、若林建築課建築担当係長、室賀交流・文化施設準備係長、徳田主査、
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者1人	記者2人
8	会議概要作成年月日	平成21年7月9日

## 協議事項等

1	開会 (大澤政策企画局長)
2	委嘱式 事務局：前回から塚田委員の後任として寺島委員に変更となったが、前回は欠席されたため、今回委嘱を申し上げたい。(人事通知書交付) 寺島委員：上田商業21世紀会の代表として、前任の塚田委員に引続き参加させていただく。商業者の立場から、都市間競争・交流などの視点で発言させていただきたい。よろしくお願いします。
3	専門委員紹介 事務局：今回は専門委員会から、関田委員に出席いただいている。一言お願いしたい。 関田委員：塩田で生まれ、今は東京でクラシック音楽のマネジメントや、日本クラシック音楽事業協会の副会長、地方自治体と連携し国際音楽祭などを行う財団法人の役員を務めている。これまでの経験を地元に戻元したい。よろしくお願いします。 事務局：それでは委員長からあいさつをいただき、議事の方もお願いしたい。
4	委員長あいさつ 委員長：今日は、前回の会議で提案があったように、中間報告に対するパブリックコメントや市民公聴会などの意見を踏まえ、委員からも必要な資料を出し、それを議論しようという事で、10名の委員から提出いただいた。それを市の方で中間報告書に対応させて整理した資料もあるが、前半は10名の委員の意見を伺い、その後、整理したもので議論をしたい。
5	議事 (1) 各委員からの意見発表 事務局：前回、また委員からも「もう1回程度検討委員会を開催してはどうか」などの意見があったため、急ではあったが会議を設定した。前半は、各委員から事前に提出された意見を一人あたり5分程度で述べていただき、その後、それらに対して意見交換をお願いしたい。後半はそれらの意見をまとめた資料1に沿って議論をいただきたい。 委員長：5分を経過してもまだどうしても言い足りない方については、後に会議内で延長について協議したいが、前半は1時間程度を目安にお願いしたい。 委員：所属している団体の創意として、大ホールは建設・運営費、稼働率など総合的に判断し1,500席程度、舞台はプロセニウム形式とし、音響反射板やオーケストラピットも必要ではないか。ただし客席可変装置は必要ないと思う。利用形態は多目的とし、古典芸能に対応した松羽目、竹羽目、花道、せりなども必要かと思う。小ホールは固定席で500席程度とし、大ホールと同様の設備を設置する。これは地域の文化団体や小中学校の文化活動でも使いやすという考え方。交流

施設について、2 間続きで茶道のほかには会議など多目的に利用できる和室、また喫茶・売店などの施設も必要ではないか。市民緑地・広場については、憩いの広場として親水的な空間、子どもが遊べる空間、美術作品の展示の設置が望ましい。整備事業費の圧縮は留意すべきだが、50 年以上使用する文化施設であり、外観上も上田のシンボルとして、歴史や文化をイメージした施設となる工夫も必要。無理して予算を圧縮し、中途半端な施設にならないことを願う。運営管理は指定管理が望ましいが、3 年程度は直営で実績を重ね、問題点を判断しながら移行すべきではないか。これら以外の項目については中間報告の内容で異論なし。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。（委員：なし）では次の委員、どうぞ。

委員：茶道だけでなくあらゆる伝統文化のためにも、水屋を持った 2 間続きの和室を作っていただきたい。それから、釘類は建築の途中でなければ打てないが、微々たる経費でできるためぜひお願いしたい。中央公民館にある小さい入り口のついた茶室はほとんど使用されていないため、そこまでは不要だと思う。その他の部分については先の委員の意見に賛成。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。（委員：なし）では次の委員、どうぞ。

委員：いくつかあるが、3 点に絞って述べたい。まずは市民緑地・広場について、JT 開発地の現況として、住宅地区・商業地区ともに樹木がほとんど無く、（仮）アリオ上田の住民説明会の際にも要望したが、特に公共地区では既存の樹木を活かし、例えば訪れた演奏家が芸術的なインスピレーションが高まるような、そういう広場にしていきたい。次にホールについて、特色として、御代田のアトリエで作曲活動をされ、小澤征爾氏などにもつながりのある武満徹氏に関わったホールとすればどうか。最後に駐車場について、これは十分な議論の上で市民が納得し、また後々までみんなが良く考えて駐車場を設定したと言うような駐車場にしていきたい。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。（委員：なし）では次の委員、どうぞ。

委員：大ホールについては最初の委員の意見とほぼ同じだが、本日欠席の委員から、市内の全中学、全小学校の交流音楽発表には最低 1,700 が必要という提案が出ているようで、義務教育への寄与という意味合いは決して無視できないと思う。次に、中間報告に対する市民意見を見ると、質の高い小ホールに対する希望が多い。小ホールの利用は競争率が高く、この委員会が上田の音楽や演劇などの文化を大切に、積極的な市民の文化発表を念頭に置くのであれば、何としても小ホールを重視して進めてほしい。上田女子短期大学には 374 席の大変質の高い小ホールがあり、文化団体などから使用の希望が何度も出されているが、講堂という位置づけであり、消防法などの観点から貸し出しが出来ない。そういう意味でも、魅力ある質の高い小ホールを希望する。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。（なし）次の委員は欠席のため、代わって事務局から意見のポイントを説明されたい。

事務局：学校関係でのホール使用にあたり、現状を踏まえて提言をいただいている。まず吹奏楽関係について、東信地区大会の A 編成（大編成）生徒数は 950～1,100 人、B 編成（小編成）も 300～400 人であり、そこへ保護者の方が来場する。なおプログラムの印刷数は 2,500 部。上小中学の交歓演奏会は生徒だけで約 700 人、近年使用している東御市サンテラスホールでは保護者が鑑賞できない。小学校の管楽器交歓演奏会や高校東信音楽祭についても午前、午後の部というやり方で行っている。このほか、小学校連合音楽会、合唱大会東信ブロック大会、移動鑑賞音楽会などもそれぞれ工夫をしながら開催しており、座席数については、それぞれの皆さんが一堂に会して開催できる規模として最低限 1,700 が要望されている。小ホールについては、できるだけ天井を高く、座席は 300 席程度。ホールのコンセプトとしては、県下第 3 の都市として地元はもちろん、東信地区やがては県内外の文化の発信地という観点で検討すべきとの提言をいただいている。

委員長：それでは次の委員をお願いします。

委員：中間報告では、基本理念と目標について「育成」や「人にやさしい」という表現があるが、これでは市内のこれまでの施設と何ら変わらないような印象が生じる。「交流」は地域内の交流、つまり各文化団体が連携して何かを行う事と思うが、私が強調したいのは都市間交流ということ。例えば山本鼎や石井鶴三は上田の出身ではなく、業績を上げた後に上田に来て活動をしたわけであり、都市間交流が無ければ彼らも現れなかった。そうした点で上田地域をもっと外にアピールする施設として考える必要があるのではないかと。既存施設をグレードアップして作るという事ではなく、特徴のあるもの、例えば平土間の小ホールは、中央公民館の大会議室や上田創造館にもあるため、しっかりと使い込めるものが良いのではないかと。市民緑地・広場についても、駐車場の台数が 400 台では少ないという市民意見があるが、千曲川の景観を活かす意味でも、例えば展望台のような広場を作り、その地下を駐車場にすれば、横浜の大栈橋の展望デッキのような

魅力的・特徴的な施設となり外部からも人が何度も訪れると思う。エリア・マネジメントに関して、上田駅のお城口からの歩行アクセスが手薄になっており、特にしなの鉄道の線路の下をくぐる部分については、洒落た小道を作るなど、そうした計画を検討委員会でも議論してはどうか。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。（委員：なし）では次の委員、どうぞ。

委員：まずはホールについて、小さな子どもがいると周囲のことが気になり、鑑賞どころではなくなってしまいます。周囲を気にせず、親子のふれあいとして鑑賞できる親子鑑賞室を作ってもらいたい。市民緑地・広場は子どもが水遊びをできる空間とすれば、子どもを持つ家庭が訪れ、そこから賑わいや活力が生まれると思う。トイレには、男性用にも小児トイレとおむつ替えシートが必要。上田城跡公園は使い勝手が良く、お母さん方には好評。女性用トイレ内の小児トイレは扉が保育園にあるような小さなものとなっており、子どもが1人で入っても明るい感じで、大人が子どものトイレの様子を見られるという利点がある。ぜひ参考にしてもらいたい。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。（委員：なし）では次の委員、どうぞ。

委員：ホールに関して、「ここに来て良かった」、「日常と少し違う感じ」ということが望ましいと思う。席数については、建設費は上がるかもしれないが、小中高生の発表や鑑賞のために1,700が良いと思う。次に太陽光発電に関して、上田地域に適した設備として、特徴と言う意味でも積極的に考えても良いのではないか。それから、愛知芸術文化センターは国内で初めての複合的な大型文化施設ということで、パンフレットの冒頭に「ワクワクしたり、感動したり、文化はきっと人の心が育てるもの」という、とても心に響く言葉があり、またここでは学芸員が無料の講義を行っているそうで、何か参考になればと思う。例が適当でないかもしれないが、ディズニーランドの魅力は、やはり「わくわくすること」であり、これが何度も人を呼ぶ魅力ではないか。予算は限られているが、何か特徴のあるものができたらと思う。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。私からひとつ、この愛知芸術文化センターは複合型文化施設という事で国内第一号ということですか？

委員：パンフレットに書いてありますので・・・。

委員長：分かりました。それでは次の委員、どうぞ。

委員：大ホールについて、子どもたちの発表に使うという意味で、以前は1,500席でそれが可能だと聞いた気がしていたが、それが1,700なければどうしても不可能であれば、昨今の経済状況もあるが1,700を希望する。また上田は映画の町として売り出していることから、施設の特徴と言う意味でも、大スクリーンを設置してはどうか。小ホールについては、やはり設備が整ったものが良いと思う。以前児童館の建設に関ったが、様々な事例を見学する中で、中高生の居場所作りとして、軽音楽、バンドなどの練習室を設けている例がいくつかあった。5～10人用の小さな部屋で良いので、リハーサル室とは異なる練習室があればと思った。金沢21世紀美術館は地下が駐車場になっており、建設費はかかるが検討してほしい。金沢は町全体を1ヶ月間程度現代アートの空間にする取組みがあるが、上田でも、以前の検討委員会で山本鼎からエイブルアートへのつながりという話が出ていたが、そうした点を全面的に打ち出してコンセプトのはっきりした美術館とすれば受け入れやすいのではないか。それと、中庭や屋根つきの屋外空間を作り、子どもたちがそこで創作・体験ができれば、それが交流広場につながるのではないか。

委員長：他に何かご発言はありますか。（委員：なし）では次の委員、どうぞ。

委員：美術館について、面積は2,500㎡確保されているが、子どものためのワークスペースなども設けるとすれば1・2階を使うものとしたい。これは、常設展示と企画展示を階で分けることによって特色のある展示ができ、また企画展示は頻繁に作品を移動するが、鑑賞の邪魔をせずに移動できる。また1階に全て入っているのではなく、2階に上がり、眺望を楽しめるような場所で気分転換を図ることも鑑賞者にとって重要ではないか。これまでの委員意見の中に小ホールが固定席という話も多いが、私たちが2,500㎡でこれまで了解している理由は、平土間の小ホールも時には展示に使うという前提からであり、もし固定席となる場合は、県展の開催などを想定し、会議室など展示に使えるスペースをぜひ確保してほしい。第2に、学芸員はできるだけ早く配置し、開館時の企画や数年先までの展示計画を立てていく必要がある。第3に、全体配置について、駐車場から降りてすぐ玄関と言う形ではなく、施設へのアプローチに特に配慮してほしい。

委員長：今の意見に対して何かご発言はありますか。（委員：なし）それではここから自由に議論を行いたい。とくに今日意見を出されなかった方で、これまでの発言に触発されたような形でも良いので、また専門委員からも、全体の印象などを含めてぜひ発言されたい。

委員：上田にも良い音響と舞台設備の整ったホールが必要。市民の皆さんからも国内外一級の舞台芸

術が出来る施設をという意見があり、これを実現すべきではないか。しかしクラシックに特化してしまうと稼働率が上がらず、無駄な箱物と言われるため、もちろん歌舞伎もできるし、市民の皆さんの発表会にも活用できる、そういう多目的で、かつミラノのスカラ座やニューヨークフィルなど一級の芸術もできる、今の技術であればそれが可能だと思う。理想を言えば、演劇や市民の皆さんの使用に適した5~600の中ホールと平土間の小ホールもあればと思うが、それが十分稼働しきれるか、無駄にならないか、という点を考えれば、大ホールに中ホール機能を持たせる、例えば2階席を閉めるなど、経費を削減して稼働率を上げるということではできないかと思う。

委員：先程も意見が出されたが、コンセプトのはっきりした企画と言うのは分かりやすいと思う。しかし金沢 21 世紀美術館や愛知県芸術文化センターというのは非常にお金がかかっており、例えば信濃美術館での善光寺信仰展の事業費 2~3 千万円に対し、東京国立博物館の阿修羅展は数億円という状況。全国に文化ホールや美術館が数多くある中、一体どのように運営していくべきなのか、私自身も分からなくなっている。地域の人を使いやすい、子どもたちの絵を鑑賞できる、創作やイベントを行う、そういう場所が必要だが、そうするとコンセプトのはっきりしない施設になってしまう。皆さんの意見をお聞きする中で、余計によく分からなくなっている。

委員：市民や委員の皆さんからも、上田市独特の自然環境を活かした施設を、という意見が出ており、青木三山や独鈷山、千曲川や上田城跡が見えるというこの立地を活かすと、やはり建物周辺の公園的なものも重要。大ホールを 1,500~1,700 席、美術館を 2 階建、公園は自然を活かし、開館後はニューヨークフィルが来るような、という中で、開館後の運営管理はどうなるのか。欲張って作っても利用されなければ意味が無いという声も耳にする。私自身も分からないのが正直なところだが、そういうことです。

委員長：立派なものが出来れば良いが、今の意見のようにオーバーな施設を作ってしまうと、空いていても毎日大変なお金が消えていってしまう。そうならない範囲で、かつ上田らしい立派な施設を作るのが私たちの課題だと思う。それと 8 月末までに最終報告をまとめるということ、これが現在の私たちにとって最大の課題。

委員：こういう大きな施設を作るとき、外国では企業のスポンサーが付くことが多い。ふるさと寄付金の例ではないが、ぜひこうしたことを上田の企業の方にもやっていただく、例えば JT の方から公共用地として無償提供していただくなど、そういう話は考えられないか。

委員長：意見としてうかがっておいてよろしいか。

委員：はい。

委員長：では議題の(2)について事務局から説明をお願いしたい。

## (2) 最終報告に向けての課題等の整理について

事務局：(資料1説明)

委員長：今日の意見の中に、基本理念と目標、特に「交流」と「育成」に関するものがあり、「育成」についてはやや否定的な内容であった。中間報告にこれらの役割のイメージ図があるが、この図についてはこれまで相当議論を重ねてきている。「育成」の意味合いは、合併特例債という制度がある中で、次世代の負担にするのではなく、今の若い世代がどんどん施設を活用し、より望ましい上田の地域社会を作るという部分にあり、イメージ図にもそうした意味を込めている。

委員：子どもの育成とかそういう事ではなくて、文化を高めることによって子ども達がこの地域に誇りを持つとすれば、外部から様々な人が入ってくるこの施設に必要な視点は「交流」であり、文化行政としてもその辺を本質的に捉えるべきではないか。表現はもちろん結構だが、方向性としてはそういう視点に広げていかなければ、結果として既存の施設の焼き直しになる危険性があると思い、敢えてコメントした。十分留意されたいという事。

委員長：イメージ図に真ん中に「交流」が位置づけられており、「育成」とは少し違う次元で、やはり非常に重要な要素として認識している。それから私たちは交流・文化施設を議論しているわけであり、隣接の商業地区や住宅地区にも考えは伸ばすが、あくまでもこの複合文化拠点を造るという事が議論の中心。しかしその上でも「交流」が一番真ん中に置かれている。だから意見の内容は入っていると思うが・・・。

委員：もちろん入っていないわけではないが、「交流」の位置づけとして、例えば、文化の交流や外部からの流入みたいなものも含めた交流など、様々な面で留意が必要という事。

委員長：文言の追加はできるため、そこはぜひ提案されたい。

委員：否定しているわけではないので、その点は理解してほしい。

委員：スケジュール的にも、今は議論の絞込みに向かわなければならない。次回に向けてどのようにまとめていけば良いかという事が重要ではないか。

事務局：次回は検討委員会と専門委員会の合同会議を予定しているが、特にホールの座席数、小ホールのあり方、それに付随して駐車場や市民緑地の部分など、課題を絞って議論されたい。

委員長：大ホールの座席数については、規模別の建設費と運営費について数値で示されなければ決着が付かない。小ホールについても同様で、次回の合同会議には事務局から数値を提示されたい。そうすれば重要な点が定まるため、あとは細部について内容を追加していけば良い。これもできれば事務局で一案を作成され、検討委員会で確認、議論し修正していかなければ、8月末までには間に合わないと思う。

委員：そうでなければ進まない。論点が出てこない。

事務局：これまでに出示された意見は多岐に亘っており、ある程度出尽くしたものと理解している。次回は今日の委員からの意見を踏まえ、例えばホールの規模や機能など主要な部分について事務局からデータを示す中で最終報告に向けて議論いただきたい。次回までに期間は短いですが努力したい。

委員長：他に何か発言はありますか。どうぞ。

委員：先程も言ったが、既存の施設が担う役割もかなりあると思う。先程和室の話が出たが、市内の他の施設にもあるならばそれらを改修して必要な機能を持たせることも必要ではないか。新たに作ることで既存の施設の稼働が下がるという事もある。私も音楽をやっているが、様々な施設を使っている。それが新しい施設にできても同じ事ではないか。建設費を抑え、あるいは機能を集約し魅力を高める必要がある中で、それはいかがなものかと思う。従来の施設をどう活かすかというような検討をなされたのかどうか、その点について伺いたい。

事務局：昨年8/1にこの検討委員会がスタートし、まずは市内文化施設の現状を視察いただいた。その後の会議でも、事務局から各文化施設の資料提供と説明を行い、それらを踏まえて議論を重ねてきている。しかし市民意見の中には、中間報告に記載されている市内文化施設の役割分担が少しわかりにくいという意見もあり、今回の課題抽出の中でもその点に触れているが、今後議論を重ねていく必要があると受け止めている。

委員：これは検討委員会の中で議論すべき問題ではなく、本来は市全体で打ち出すべきプランかと思うが、「現在こういった機能面が弱いので、こういう新しい施設はどうか」という具体的な提案をされるべきではないか。それが、私がコンセプトの部分で失礼ながら甘いと感じた部分。

委員：(直前の委員意見に対し) これまでの意見は個人的な意見なのか、それとも所属されている団体で検討して練り上げたものなのか、その点を確認したい。

委員：この文化施設に関しては、実際には具体的に協議する時間的余裕はあまりなくて、私は所属団体のうちの一人として発言している。先程は自分で音楽をやっているからという発言をし、立場を離れてしまい申し訳なかったが、そういう立場からの意見ではない旨理解してほしい。

委員：では団体として練り上げたというわけではないのですね。

委員：そうですね。

委員長：検討委員会の委員は、市でそれぞれのバックグラウンドから選んでいるが、会議では個人の立場で発言いただくという事で進めたいと思う。それと既存の文化施設は私たちも現地を視察し、既存のネットワークの中での位置づけを踏まえて検討しているが、中間報告にあまり表現されていない。例えば中間報告で小ホールを2~300席としているのは、既存施設に中規模のものがあるため役割分担の上での考えだが、市民意見では、むしろ中規模のものが必要という意見も多いため、修正するポイントの一つでもあると思う。次回は事務局から必要なデータを示され、大ホールの規模などについて決着したい。それでは、(3) その他について説明されたい。

### (3) その他

事務局：次回7/15は第13回検討委員会と第6回専門委員会を合同開催する。午後4時から2時間程度、場所は上田駅前ビルパレオ2階会議室でお願いしたい。

## 6 閉会(日端委員長)

委員長：ありがとうございました。結果的に大変素晴らしい会議になったと思います。来週の会議は懸案となっているいくつかの事項について決着したい。長時間お疲れ様でした。終了いたします。

\* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください

\* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。